

2025年度 JICA 研修受け入れについて(別科助産専攻)

1. 本学に依頼させた研修テーマ

「日本・沖縄における看護助産教育」

2. 研修受け入れ日程及び研修員の対象国・人数

1) 令和 7 年 7 月 4 日 JICA 沖縄 2025 年コートジボワール国別研修「母子保健システム強化」コース 日本・沖縄における看護助産教育(コートジボワールからの研修生 10 人)

2) 令和 7 年 10 月 24 日 JICA 沖縄 2025 年度課題別研修「公衆衛生活動による母子保健強化(A)」(インドネシア、パキスタン、ドミニカ共和国、ニカラグア、レバノン、スーダン、ウガンダ、赤道ギニア、タジキスタン、ミクロネシアからの研修生 11 人)

3. 研修生および参加学生からの感想

1) 研修生からの感想

「西平朋子先生より:助産師への道のりを学びました。彼女たちは単なるケア提供者ではなく、教育者であり、擁護者であり、地域で信頼される存在です。また、フォローアップケアや健康教育における役割は、非感染性疾患(NCD)の早期発見と予防に不可欠です。」

「沖縄県立看護大学でのセッションより:産科医の右腕として活躍する日本の助産師の卓越した役割と技能を認識しました。彼女たちは非常に有能な専門家であり、将来的にはニカラグアと日本が研修交流プログラムを構築し、産科看護師が日本での短期研修を通じて特定の能力を強化できることを願っています。」

2) 参加学生からの感想

研究員の方々との交流を通して諸外国の母子保健の現状や課題、助産師の役割を実際に聞くことができ勉強になった。助産師教育の内容、特に学生の分娩件数や実習方法なども国によって異なっており、分娩介助件数の違いには驚いた(日本は 10 例程度、国によっては 40 例以上など)。また、それぞれの国の分娩介助方法の実際を見せていただき、国によって分娩介助の方法や分娩時のケアが異なっていることや文化によって分娩やケアの捉え方が異なることなど、多くの学びを得ることができた。研修員の方々と交流できて楽しかった。次回もぜひ参加したいなどの感想があった。

教員および助産学生が研修員と交流することにより諸外国の助産師教育、母子保健施策等への理解を深めることができる貴重な機会であった。

4. 写真

